The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	都市住民男性の飲酒習慣ならびに飲酒量増加に関連する要因 : 大震災後の応急仮設住宅入居者における分析
Author(s)	高鳥毛, 敏雄
Citation	大阪大学, 2002, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/44396
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【50】

氏　　名	高鳥毛　敏　雄（たかとりげ　としお）
博士の専攻分野の名称	博　士（医　学）
学　位　記　番　号	第　17280　号
学位授与年月日	平成14年9月17日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学　位　論　文　名	**都市住民男性の飲酒習慣ならびに飲酒量増加に関連する要因－大震災後の応急仮設住宅入居者における分析－**
論文審査委員	（主査） 教　授　多田羅浩三 （副査） 教　授　武田　雅俊　　教　授　的場　梁次

論文内容の要旨

【目的】

過度な飲酒習慣は精神および身体疾患の面からだけでなく、様々な社会問題にも関連する極めて重要な公衆衛生上の課題である。飲酒習慣に起因する問題は飲酒量が増加するにつれて大きくなってくる。飲酒量増加に関連する要因の検討はこれまでほとんど報告が行われていない。本研究の目的は都市住民男性について飲酒量増加に関連する要因を明らかにすることである。

【方法ならびに成績】

神戸市在住し、平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災に被災し、応急仮設住宅に入居していた者のうち平成8年11月現在に応急仮設住宅に在住していた神戸市民26,678世帯、49,033人を対象とした。これらの対象者に自己記入式の調査票を郵送し、回収した。有効回答数は33,414人（回答率68.1%）であった。この33,414人中の20歳以上の男性14,179人を今回の分析対象者とした。

関連する調査項目のうち、睡眠状態、アルコールと関連の深い有病疾患、精神状態については複数の項目を点数化し分析を行った。「睡眠得点」は調査票の中の現在の睡眠状態、現在の睡眠時間、震災前後の睡眠状態の比較の項目を用いた。「アルコール関連疾患得点」は「肝臓病」、「胃腸病」、および「高血圧」の3疾患をスコア化した。「精神得点」は、「仕事にとりかかる気になかなかならない」、「何となくいらいらすることがよくある」、「テレビがいつものように面白くない」、「いつものように気楽に人に会えない」、「朝いつものように新聞を読む気にならない」、「夕方になると気持ちが楽になる」、「決断がなかなかつかない」、「朝目が覚めたとき床離れか悪い」、「最近便秘がち」の9つの精神症状をスコア化した。「生活得点」は、就労状況、自治会参加の有無、近所とのつきあいの程度、震災前に比べた収入の変化、震災後の生活感、移転不安の有無、独居の有無、外出頻度、身近な友人の存在、娯楽・楽しみの有無の10項目をスコア化した。「健康習慣指数」はBreslowの7つの健康習慣をスコア化したものである。飲酒量増加に関するオッズ比の計算にあたっては飲酒習慣を除いた6つの項目をスコア化した健康習慣指数を用いた。分析は震災前の飲酒量との変化と各変数の関連性の検定にはχ^2検定をもちいた。2×2以上の表における2変数間の順位関係はGamma係数を用いて検定した。震災前後における飲酒量の増加者の特徴を明らかにするための各変数のカテゴリー間のオッズ比の計算には、多重ロジステック回帰分析を用いた。統計解析は

SPSS7.51Windows を使用した。

20 歳以上の男性 14,179 人のうち飲酒習慣を有した者は 8,661 人（67.4%）であった。「震災前に比べて飲酒量または飲酒回数が増えましたか」の質問に回答があった者は 8,355 人、これらの回答者の中で「増加した」と答えた者は 32.1%、「減った」と答えた者 25.3%、「変わらない」と答えた者 42.6%であった。飲酒量が増加したとした者の割合は飲酒状況別には「ほとんど毎日飲む」、一日の飲酒量別には「３合以上」と答えた者で有意に高かった。また健康状態別には「健康状態が悪い」の者では 39.6%、「肝臓病を有する」の者では 44.2%、睡眠状態別には「睡眠障害を有する」の者では 47.4%、喫煙状態別には「喫煙本数が増加した」の者では 58.6%と有意に高かった。「増加した」とした者と生活関連項目、精神関連項目、健康習慣項目の個々の項目との間にも有意な関連が認められた。

これらの単変量の分析で得られた結果を多重ロジスティック回帰分析を用いて解析した。多変量解析は、年齢のみを補正する解析と全変数を補正する解析の２通り行った。精神得点、生活得点についてはスコアを区分化した変数を用いた。「睡眠得点」別には得点が高くなるにつれオッズ比は 1.53、2.10、3.88（年齢のみ補正）と有意に高くなった。「アルコール関連疾患得点」別には得点が増加するにつれてオッズ比が 1.57、2.01、2.65 と有意に高くなった。「精神得点」区分別には得点区分が高くなるにつれてオッズ比が 2.27、3.65 と有意に高くなる傾向がみられた。「Breslow の健康習慣指数」別には６点の者を基準としてみると得点が低い者ほどオッズ比は高くなった。「生活得点」区分別には得点区分が上がるにつれて 1.11、1.65、2.45、3.34 でオッズが高くなった。睡眠得点は、精神得点区分、健康習慣得点区分との間には相関係数 0.451、－0.405 の強い相関関係がみられたことから、「睡眠得点」を除いて多重ロジスティック回帰分析を行なうとオッズ比の値はより大きな値となった。

【総括】

今回の成績から震災後に飲酒問題が健康課題として顕在化した背景には、都市社会には一定の頻度で過度の飲酒習慣を有する者が存在している状況があり、特別な生活の変化や社会的抑止力が働きにくい環境下においては飲酒問題が顕在化しやすい状況にあることがあったと推測された。都市住民の健康づくりにあたっては飲酒習慣も大きな課題であることを認識し、組織化されていない人々も含めた健康習慣を主体的に実現できるようにサポートをしていく保健活動の重要性が大きいと考えられた。本研究で目的変数とした飲酒量の増加の状況や変化については自記式調査票の記載に基づくものであり、回収率も決して高いとは言えなかった。しかし本調査は神戸市の応急仮設住宅入居者の全員を対象として実施されたものである。そのためにサンプルサイズは極めて大きな調査であることに特徴がある。したがって、以上に示された飲酒量増加に関する要因の分析から明らかとなったことは、現在の都市住民の健康課題に一般化しうるのではないかと考えられる。

論文審査の結果の要旨

過度な飲酒習慣は精神および身体疾患の面からだけでなく、労働災害、家庭崩壊などの社会問題にも関連する極めて重要な公衆衛生上の課題である。しかし飲酒量増加に関連する要因の検討についてはほとんど報告が行われていない。本研究はこの飲酒量増加に関連する要因を都市住民男性を対象とした調査から明らかにすることを目的とした。

研究対象は平成８年 11 月時点に兵庫県南部地震のために応急仮設住宅に入居していた神戸市民 49,033 人全数であり、調査票が回収できた者は 33,414 人、回答率 68.1%であった。分析対象はこのうちの 20 歳以上男性 14,179 人中の飲酒習慣を有すると答えた 8,661 人（67.4%）である。

今日の都市住民の飲酒量の増加は、主観的健康感、喫煙状況、睡眠の状況、健康習慣指数（ブレスロー）、生活関連の項目、有病疾患の状況、精神関連項目とそれぞれ有意の関連がみられた。主な関連をオッズ比でみると、主観的健康感では「おおいに健康である」に対する「非常にわるい」のオッズ比は 4.49、睡眠の状況では「よくとれている」に対する「ほとんどとれない」のオッズ比は 3.66、健康習慣指数では飲酒習慣を除いた健康習慣「６つ」に対する「１つ」のオッズ比は 2.86、喫煙状況では「減った」に対する「増えた」のオッズ比は 8.12 であり、それぞれ有意の大きい値が得られた。また、アルコール関連、精神得点、生活得点、健康習慣指数の４つの変数を説明変数とする重回

帰分析では、それぞれ 0.058、0.119、0.073、−0.178 の有意の標準回帰係数が得られ、健康習慣指数の係数が最も高値であった。

本研究結果は、今日の都市住民の飲酒量増加に健康状態、健康習慣、生活関連項目、精神状況など、多様な要因が関連を有することを示している。重回帰分析において健康習慣指数が最も大きい回帰係数を示したことは、日常的な当事者の健康管理状況が最も重要な要因であることを示唆するものと考えられる。地域に生活する人たちが日常的に健康な生活を営むことができるよう環境の整備をはかることは、公衆衛生の基本課題であり、本研究は、震災被災地における調査という状況の中で、極めてサンプルサイズの大きな調査が可能となり、その結果をもとに、現代における公衆衛生の課題を具体的に明らかにしたものとして、学位に値するものと認められる。